

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	金沢大学
-------	------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 金沢大学	特別支援学校	知的障害者	かなざわだいがくにんげんしゃかいがくいきがっこうきょういくがくろい 金沢大学人間社会学域学校教育学類 ふぞくとくべつしえんがっこう 附属特別支援学校

2 研究課題

キャリア発達支援の視点による小中高12年間を見通した学習活動の充実改善

3 研究の概要

本校では、平成26年度に「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を受託し、①キャリア教育を柱とした「作業学習モデルプラン」の開発、②就労移行支援事業所と連携した中学部・高等部における進路指導の充実改善、③児童生徒のキャリア発達を促す授業実践の充実改善に取り組んできた。

その成果と課題を踏まえて、平成27年度は、①作業学習モデルプランの充実、②就労移行支援事業所と連携した高等部進路指導の改善、③児童生徒のキャリア発達を促す授業研究に取り組んできた。

具体的には、①作業学習モデルプランの充実では、金沢大学附属図書館医学図書館内に開設した「プラタナスカフェ」で、季節ごとのイベントや新メニューの開発、生徒同士が学ぶ合う学習活動等に取り組んできた。また、校内外の環境整備を行う作業班（「クリーン工房」）では、障害のある社会人との協働作業を行い、計画的なミーティングを導入した。

②就労移行支援事業所と連携した高等部進路指導の改善では、高等部の進路指導のあり方を見直した。また、高等部1年の一般就労希望者を対象に、就労移行支援事業所と連携した就労アセスメント実習を行い、評価の手順と内容を改善した。

③児童生徒のキャリア発達を促す授業研究では、ワークショップの手法を採り入れた職員研修を行い、各部の学習内容の関連等について検討した。また、校外に公開した研修会を行い、キャリア発達支援における評価のあり方について検討した。それらをふまえて、各部で授業実践を行った。

4 研究の成果

- ① 作業学習モデルプランの充実では、校外に開設したカフェにおいて、作業学習サポーターの指導のもと、新たな商品（カフェラテ、カフェモカ）を製造、販売することができた。また、上級生と下級生とでペアを組み、生徒同士で学び合う学習活動に取り組んだことで、上級生と下級生の双方が自己理解を深めることにつながった。
障害のある社会人との協働作業では、校内外の環境整備作業と並行して、年間を通して計画的にミーティングを導入したことで、生徒が卒業後の生活に対してイメージを持てるようになるとともに、自分が現在取り組んでいる作業の様子をより現実的に即して把握できるようになった。
- ② 就労移行支援事業所と連携した高等部進路指導の改善では、実習先の就労移行支援事業所で作成・使用している評価表を用いて、生徒・教師・就労移行支援事業所の支援員の三者が評価を行ったことで、三者間での認識の違いを把握することができた。
一方、進路指導主事と進路指導コーディネーターとが連携して、高等部3年生の産業現場等における実習を充実させたことで、一般就労に結びついた生徒が前年度に比べて増加した。（平成26年度2名、平成27年度4名）
- ③ 児童生徒のキャリア発達を促す授業研究では、国立教育政策研究所が発行しているパンフレット「小学校／中学校／高等学校におけるキャリア教育推進のために」に書かれてあるキャッチフレーズを参考にすることで、各部で観点を明確にして、領域・教科を合わせた指導における授業実践を行うことができた。

5 課題と今後の方策

- ① 作業学習モデルプランの充実では、「プラタナスカフェ」と校内外の環境整備を行う作業班（「クリーン工房」）において、平成26・27年度の実践を通して作業学習の充実改善が図られたが、他の作業班ではまだ取り組めていない。そこで平成28年度は、菓子製造を行う作業班（菓子工房）で、作業学習アドバイザーを活用して、作業学習の充実改善に取り組むとともに、各作業班の代表生徒で構成する作業学習委員会を設置する予定である。
- ② 就労移行支援事業所と連携した高等部進路指導の改善では、就労移行支援事業所で行う就労アセスメント実習の期間や評価項目について再度検討する必要がある。また、就労移行支援事業所の施設外就労先で就労アセスメント実習を行うことが可能かどうかを検討する必要がある。そのために、高等部研究会でまず検討を行い、検討された内容について就労移行支援事業所との連絡会を行い、平成28年度の実践について検討を行う。
- ③ 児童生徒のキャリア発達を促す授業研究では、児童生徒のキャリア発達を評価するための観点を教員間で共通理解することが十分にはできていなかった。そのため、評価についての職員研修を行う。また、平成27年度は、授業研究を行う期間を十分に確保することができなかったため、平成28年度の研究では、今年度の研究を踏まえたうえで、授業研究を中心に行う予定である。